



地下街探検



東京土木施工管理技士会の母体である(一社)東京建設業協会が開催した「東京都建設系高校生作品Competition2015」の様子。毎年12月に開催しており、都内高等学校の建設系学科に所属する学生の作品が発表されている。

第七回 新宿駅西口広場

新宿駅西口の地下に広場が設けられたのは一九六六年のこと。六四年の東京オリンピック前後には、小田急、京王の両私鉄が、デパートと自社線駅舎を新築している。広場を設計したのは、小田急百貨店の設計も担当した建築家・坂倉準二。

当時、新宿駅西口駅前には広大な淀橋浄水場が広がっていたが、六五年にこれが移転したことにより、跡地では新都心の開発が進んでゆく。そこで新宿駅と新都心を、車道と歩行者用の道路を分離しながら地下通路でつなぐ役割を果たしたのがこの広場だった。

六〇年代後半にはここで若者たちによる反戦フォーク集会が行われたことにより、新宿カウンターカルチャーを象徴する場となったりもした。その後、新都心の超高層ビル街の開発が進み、都庁が移転してきたことなどで、この場所の重要性はさらに増す。乗降客数日本一である新宿駅の利用者が昼夜往来し、広場前の地下道は新都心への主要な歩行者ルートとなってきた。

その広場通路に面した場所です。二〇〇〇年から運用されているのが「新宿駅西口広場イベントコーナー」だ。総面積四七〇平方メートルとかなり広く、常にイベントやチャリティ販売などが開催されている。

イベントコーナーは地下空間であるが、広場や通路から外光が入るため明るい雰囲気があり、前の通路は、新宿駅から都庁や京王プラザホテル方面へと往来する人びとの通行が多い。閉鎖空間ではなく地下道に面して開けているので、通りがかりに立ち寄る人も多い。

五十年前にできた地下広場が、西口新都心が開発され、新宿は当時では考えられないほどのメガシティに成長しても未だ機能している。ここはすでに東京の歴史的な場所になっていると言える。

地下街コラム

新宿駅西口広場イベントコーナーでは日々さまざまな催事が行われているが、なかでも恒例のものは、多くの利用者の人気を集めている。五月中旬の「看護の日」、八月の道の日イベント「夢のみち」、全国各地や都内各地の名産品を販売する催事、春と秋に行われる古書市、刑務所受刑者の作業製品を展示即売する矯正展などは、ほぼ毎年行われ、毎回訪れる常連客も多いという。

(取材協力)公益財団法人東京都道路整備保全公社



連載を振り返って

連載第一回目の「八重洲地下街」の取材でまず最初に知ったのは、地下街とは、モーターゼーションの進展によって駅に駐車場が必要になり、それらとの一体開発で造られ始めたものであるという話だった。これは、地下街という空間を改めて理解するのに大いに役立った。

その八重洲地下街と同様に、駅の地下駐車場とともに開発されたのは、「新宿サブナード」。しかし、八重洲地下街は六割が男性客だが、新宿サブナードは圧倒的に女性向けのテナントが多いという話を聞き、立地により地下街の性質がかなり異なることを興味深く思った。

新橋駅汐留側駅広場地下の「ウィング新橋」も、やはり駐車場と一体開発の地下街。ここは小規模だが、常に人通りのある立地では商空間としての可能性があることを知った。

地下鉄初の大規模駅ナカ商業施設となった「Echika表参道」では、さまざまな制約のあるなかで、他の鉄道会社とは一線を画す駅ナカ地下街を創り出した東京メトロのソフト力に感心。

地下鉄大手町駅とも直結する最新オフィスビル地下の「OOTEMORI」



ウィング新橋



八重洲地下街



OOTEMORI



新宿サブナード

は、それまで取材した地下街とはまったく異なるタイプ。ビル足元の敷地に整備された「大手町の森」の樹々が見え、外光も入る地下とは思えない空間に、この町で働くキャリアウーマン向けのおしゃれな飲食店、ショップが揃っていた。

丸の内の、丸ビルと新丸ビル間の「行幸地下通路」は、以前は地下駐車場だった場所を歩行者用地下道に改装し、ギャラリイなどのアメニティ性も持つ空間としている。カフェやマルシェ、イベントスペース、災害時の避難場所など、さまざまな利用方法を模索中ということだった。今回も含め計七回、都市の中で、地下空間に広がる「街」のかたちを見聞し、地下ならではの特性を知った。都心での開発が相次ぐなか、新たな地下空間の可能性が広がっていきそうだ。

- ▼第一回 八重洲地下街
● DOBOKU Vol. 59
- ▼第二回 新宿サブナード
● DOBOKU Vol. 60
- ▼第三回 Echika表参道
● DOBOKU Vol. 61
- ▼第四回 ウィング新橋
● DOBOKU Vol. 62
- ▼第五回 OOTEMORI
● DOBOKU Vol. 63
- ▼第六回 行幸地下通路
● DOBOKU Vol. 64